様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　３月３１日現在

機関番号：１３８０１
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2010～2012
課題番号：22730390
研究課題名（和文）　現代ジャーナリズム分析から導く対ナショナリズム自覚的対峙環境構築に向けた実証研究

研究課題名（英文）　Empirical Study for Building the Environment where Japanese Journalism Can Become Conscious of Underlying Nationalism by Analyzing Modern Journalism.

研究代表者
中　正樹（NAKA MASAKI）
静岡大学・情報学部・准教授
研究者番号：70388685

研究成果の概要（和文）：
本研究の目的は､現代ジャーナリズムにおけるナショナリズム観､ナショナリズム言説の構造、そしてそれらが示唆するナショナリズムの意味を解明することであった。研究の結果、ハンガリーのテレビ・ジャーナリズムによるナショナリズムへの対応、そして日本との相違点と類似点、および北京オリンピック期間中のテレビニュースに現れた中国という国家に対するステレオタイプを明らかにした。また、公的イシューに関わる新聞記事のデータベース化を進めた。今後は、データベースの完成度を高めた上でそれらを用いて内容分析を進め、ジャーナリズムにおけるナショナリズム言説の構造をさらに実証していく。

研究成果の概要（英文）：
The purpose of this study is to explore the view of nationalism, the structure of nationalism discourse and the meaning of nationalism in modern Japanese journalism. As the result of this study, I illustrated how Hungarian TV journalism deals with nationalism, similarities and differences between Hungarian TV and Japanese TV, and the stereotype to China included in the Beijing Olympics and its news reports through Japanese TV. And, I advanced making a database of national newspapers articles about official issues. From now on, after having increased the completeness of the database, I plan to analyze a database of national newspapers articles, and to substantiate underlying nationalism by analyzing modern journalism.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	1,400,000	420,000	1,820,000
２０１１年度	600,000	180,000	780,000
２０１２年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：コミュニケーション・情報・メディア

１．研究開始当初の背景

ジャーナリズムとナショナリズムの関係は、近代以降、新聞などがナショナル・アイデンティティの形成に重要な役割を果たしたことが知られている。特に急速な近代化を余儀なくされた日本においてそれは顕著であり、茶本（1984）、山本（1990）、鈴木（1997）等によって詳細な分析がなされてきた。そしてグローバル化が加速度的に進行する現代、むしろ先進国のジャーナリズムがナショナルな色彩を帯びつつあるという指摘がある（Tomlinson,1999=2000）。自国が利害の当事者となる国際問題が報道されることによって、それらの報道がナショナル・アイデンティティと結びつく機会は確実に増加している。

しかしながら日本において、現代ジャーナリズムとナショナリズムの関係を対象とした研究は寡聞にして耳にしない。戦前・戦中を対象とした研究を除きナショナリズムが研究対象とならなかった背景には、現代の、すなわち戦後のジャーナリズムが、戦前・戦中にナショナリズム高揚に寄与して戦争に加担した反省から再出発したという事実が関わっている。その事実は日本のジャーナリズムによるナショナリズムに対する言説を固定化し、ジャーナリズム研究もまた、その言説を分析対象とするような研究を回避してきた。

1990 年代以降、日本ではナショナリズムが顕在化しつつある。近隣諸国との利害が絡んだ問題が発生する度に、戦争を知らない世代を中心として「国益」を重視する世論が高まってきた。こうした現状において、現代ジャーナリズムとナショナリズムの関係を解明する研究が強く望まれている。

２．研究の目的

本研究の目的は、2001 年から 2010 年にかけて日本が利害の当事者となった国際問題という基準で選定した公的イシューに関わる新聞報道を内容分析することで、現代ジャーナリズムのナショナリズム観、現代ジャーナリズムにおけるナショナリズム言説の構造、そしてそれらが示唆する現代ジャーナリズムにおけるナショナリズムの意味を解明し、最終的にはジャーナリズムがナショナリズムと自覚的に対峙可能な環境を構築することである。

３．研究の方法

先行研究の検討を通じてジャーナリズムおよびナショナリズムに関する知識を蓄積しつつ、下記の 3 つの研究手法を用いて研究目的の達成を試みた。

(1) インタビュー調査

比較対象とするため、日本以外の国においてジャーナリズムがナショナリズムに対してどのように対応しているのかについてインタビュー調査した。調査対象国となったのはハンガリーである。同国の全国放送テレビ局におけるニュース報道の担当者およびジャーナリストたちに、テレビメディア、テレビニュース、そしてナショナリズム等についてインタビューした。

(2) テレビニュースの内容分析

日本のジャーナリズムに内在するナショナリズム観を明らかにするため、以前から取り組んできたテレビニュース研究の成果を用いて、テレビニュースに含まれるナショナリズム観を抽出すべく内容分析を実施した。対象となったテレビニュースは、2008 年に開催された北京オリンピック期間中に、日本のキー局の夕方のテレビニュース番組で報道されたニュースである。

(3) 新聞記事のデータベース化

日本のジャーナリズムに内在するナショナリズム観を明らかにするため、設定した公的イシューに関わる新聞記事のデータベース化に取り組んだ。その対象となった新聞は朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞の 5 紙である。対象となった期間は 1991 年から 2010 年までの 20 年間である。

４．研究成果

(1) 平成 22 年度

以前から取り組んできたテレビニュース研究の成果を用いて、テレビニュースに含まれるナショナリズム観を抽出すべく内容分析を実施した。具体的には、2008 年に開催された北京オリンピック期間中のテレビニュースの内容分析に取り組んだ。そして、オリンピック開催直前に発生したチベット問題をはじめとする中国におけるさまざまな出来事が、ネガティブなステレオタイプとなってテレビニュースに反映されている可能性を指摘した。その成果は、研究論文「A Quantitative and Qualitative Analysis of Japanese Television News Coverage of the Beijing Olympics Opening Ceremony」として *International Journal of the History of Sport*, 27:9 に掲載された。また、その内容を The 18th Conference of the European Association for Sport Management (EASM 2010)にて報告した。

また、比較対象とするべく日本以外の国においてジャーナリズムがナショナリズムとどのように向き合っているのかについてイ

ンタビュー調査を実施した。調査対象となったのはハンガリーの同国の全国放送の地上波テレビ局であるMTV、TV2、そしてRTL Klubの報道部門の責任者、プレゼンター、そしてジャーナリストである。そして、ハンガリーのテレビメディアをめぐる現状を総合的に考察した成果を「ハンガリーのテレビメディア」と題する研究論文に、ハンガリーの放送制度、放送法制、テレビ・ジャーナリズムの倫理、そしてナショナリズムへの対応について考察した成果を「ハンガリーのテレビ・ジャーナリズムの倫理」と題する研究論文にそれぞれまとめた。両論文は、『武蔵大学総合研究所紀要』第20号に掲載された。

(2) 平成23年度

公的イシューに関わる新聞記事のデータベース化、および先行研究の精査に取り組んだ。

また、昨年度実施したハンガリーにおける全国放送テレビ局のニュース担当者たちに対するインタビュー調査の結果を報告書『テレビニュースに関する調査報告書 2010―ハンガリー―』にまとめた。

そして、上記の報告書の内容をもとに、民主化革命後のハンガリーのテレビメディアの変遷について考察した研究論文「ハンガリー民主化革命後のテレビメディアの変遷に対する考察―ハンガリーのテレビメディア関係者へのインタビュー調査を通して―」にまとめた。本論文では、ハンガリーのテレビメディアに現れた変化が世界的に普遍的な現象であることに言及しつつ、同様の現象が日本のテレビメディアにも起きた変化であることを指摘した。本論文は、『静岡大学情報学研究』第17巻に掲載された。

(3) 平成24年度

継続して公的イシューに関わる新聞記事のデータベース化に取り組んだ。そして、収集したデータを元にSPSS Text Analysisを用いた内容分析に取り組んだ。

また、2012年の総選挙によって自民党が民主党から政権を取り返した結果として、政治的にナショナリズム的傾向が強まるといった新たに仮説を立て、本研究では分析対象とはしていなかった2010年以降の新聞記事のデータベース化を開始した。

加えて、北京オリンピック期間中のテレビニュースを内容分析した研究論文「A Quantitative and Qualitative Analysis of Japanese Television News Coverage of the Beijing Olympics Opening Ceremony」が、北京オリンピック報道に関するグローバルな研究の成果をまとめた研究書、Encoding the Olympics: The Beijing Olympic Games and the Communication Impact Worldwideに掲載された。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

① 中　正樹, 2012年、「ハンガリー民主化革命後のテレビメディアの変遷に対する考察―ハンガリーのテレビメディア関係者へのインタビュー調査を通して―」『静岡大学情報学研究』第17巻：13-25.（査読有）

② 中　正樹, 2011年、「ハンガリーのテレビ・ジャーナリズムの倫理」『武蔵大学総合研究所紀要』No.20：68-76.（査読無）

③ 中　正樹, 2011年、「ハンガリーのテレビメディア」『武蔵大学総合研究所紀要』No.20：59-67.（査読無）

④ Naka, Masaki and Kobayashi, Naomi, 2010, A Quantitative and Qualitative Analysis of Japanese Television News Coverage of the Beijing Olympics Opening Ceremony, *International Journal of the History of Sport*, Volume 27(9/10): 1778-1793.（査読有）

〔学会発表〕（計１件）

① Naka, Masaki and Kobayashi, Naomi, 2010, A Quantitative and Qualitative Analysis of Japanese Television News Coverage of the Beijing Olympics Opening Ceremony, The 18th Conference of the European Association for Sport Management: EASM2010 at the Clarion Congress Hotel Prague, Prague, Czech Republic: poster presentation.（2010年9月17日）

〔図書〕（計２件）

① Naka, Masaki and Kobayashi, Naomi, 2012, “A Quantitative and Qualitative Analysis of Japanese Television News Coverage of the Beijing Olympics Opening Ceremony”, Qing, Luo and Richeri, Giuseppe eds., *Encoding the Olympics: The Beijing Olympic Games and the Communication Impact Worldwide*, Routledge, 374-389.

② 中　正樹／小林直美／コバーチ・エメシ

ェ，2011 年、『テレビニュースに関する調査報告書 2010―ハンガリー―』国際テレビニュース研究会.

６．研究組織

(1)研究代表者

中　正樹（NAKA MASAKI）
静岡大学・情報学部・准教授
研究者番号：70388685

(2)研究分担者

（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　　）

研究者番号：